

HADANO MEISUI

ROTARY CLUB WEEKLY

例会場 秦野市平沢 2550-1 チャイナガーデン TEL0463-(82)-0266
事務所 厚木市 林 1-26-14 磯部由紀子 TEL090-2163-2586
例会日 毎週木曜日 12時30分～13時30分
会長 山谷洋子 幹事 東島礼美 会報・雑誌・IT 委員長 福原美千加



世界に希望を生み出そう

「世界に希望を生み出そう」

2023 年～2024 年度国際ロータリー会長
ゴードン R. マッキナリー

第1890回 2024年 5月8日（水）

5月8日（水） 参加人数 14名

行程表

東京 帝国ホテル：清水建設東京木工場

夕食ホテルトラスティ東京ベイサイド

配車 9時

秦野駅南口（中栄信金前）＝＝＝秦野中井 IC＝＝＝（東名：首都高）

9 : (休) 港北 PA

＝＝霞が関 IC＝＝＝東京帝国ホテル（東京 RC 例会）＝＝＝木場（清水

11 : 15 着 12 : 30 ～ 14 : 00 出発 14 : 30～16 : 30

建設工場）＝＝＝トラスティ東京ベイサイド＝＝＝首都高：東名）＝＝

夕食 17 : 00 16 : 50～18 : 15 (休) 海老名 SA

＝秦野中井 IC＝＝＝秦野駅南口

19 : 45

東京ロータリークラブ

卓話 青少年奉仕月間例会

（公財）国際文化フォーラム

常務理事 水口景子氏

（※変更あり）



東京ロータリークラブの誕生

1920年10月

東京ロータリークラブ（RC）は、米山梅吉と福島喜三次の出会いに始まる。



東京RCの生みの親の1人
福島喜三次



若き日の米山梅吉



1918年1月、米山は、目賀田種太郎男爵を団長とする財政調査団に加わって渡米。テキサス州ダラスでダラスロータリークラブ会員の福島喜三次に会い、初めてロータリー運動に接し、大いに心を動かされる。帰国後、米山は2年余、ロータリー精神と組織の研究に努めた。

当時の日本は、第一次大戦に連合国側として参戦。一時的な景気に沸いたものの、戦後は恐慌に襲われ、不景気のなかで農民運動や初のメーデーが行われるなど揺れ動いていた。ロータリー精神が容易に受け入れられるような状況ではなかったが、米山の熱意は少しも衰えなかった。1920年1月には福島も帰国。在日米国人実業家ウォルター・ジョンストン(W.L. Johnstone)の応援を得て、具体的な準備作業が進められた。設立準備会を開いたのは9月1日である。設立総会は10月20日、銀行クラブにジョンストンと賛同の有志14名（チャーターメンバー24名中）を集めて開かれた。総会では初代会長に米山を、幹事に福島、理事に伊東米次郎、樺山愛輔、小野英次郎を選出。国際ロータリー（当時はロータリー国際連合会と称していた）

のシカゴ本部に加盟申込書を送り、翌年4月承認された。はじめは会員の選考も厳格で、クラブの記録や通信にも英文が使われた。しかし例会への出席状況は、あまりはかばかしくなかったようである。東京RCは国際ロータリーにより特別代表に任命された福島喜三次とWalter Johnstone並びに米山梅吉の尽力により、日本で最初に創立された、国際ロータリー直轄のクラブである。創立時の記録にスポンサークラブの存在は記されていないことを申し添える。

東京木工場の歴史



大正時代の東京木工場

東京木工場の歴史は、今からおよそ 130 年前の 1884 年（明治 17 年）までさかのぼることができます。当時の清水満之助店（清水建設の前身）が、深川島田町（現 東京都江東区木場）にあった幕府御用材木商の敷地跡を取得し、木材切組場として作業所を開設したのが始まりです。

その後、製材機や木工機械等を導入・整備し、「深川工作所」として現場の需要に応えるようになり、1923 年（大正 12 年）の関東大震災に際しては木材の集積所として帝都復興に貢献しました。木工に関する高い技術力を持つ自社工場は、同業他社にはありません。また 木工場では、お客様からいつ木工事のご依頼をいただいても対応できるよう、木の目利きが良質な木材を仕入れ、管理・保管をしています。経験を重ね、木を知り抜いた匠が最高の素材で生み出す一品は、お客様の高い評価をいただいています。あらゆる木工事において、設計段階から製作・施工まで行うトータルプロデュースにより、今後ともハイクオリティな空間創造をテーマに、木工場は次世代への新たな貢献をしていきます。





東京ロータリークラブ





清水建設木場木工場







有意義な研修でした。
皆様、1日ありがとうございました。